

講義年月日 2006年11月13日(月)
講演者 新元 公寛 氏 (紀伊国屋書店 OCLC センター センター長)
テーマ OCLC NetLibrary 日本語コンテンツ搭載計画について

講義内容

OCLC NetLibrary の概要

(全般)

- ・主に学術研究図書館向けの eBook コレクション(全12万タイトルの90%が学術研究機関向け)
- ・導入機関数は約15,000
- ・約440の主要出版社が参加、新しいタイトルをメインに eBook を提供
- ・文系、理系を問わず多岐に渡る分野をカバーしている

(機能面)

- ・すべてのサービスをインターネット環境のみで提供
- ・eBook 間の全文横断検索、書籍内の全文検索機能
- ・個人専用メモ機能
- ・辞書機能内蔵
- ・印刷体書籍に準じた範囲でコピーまたは印刷が可能

(管理面)

- ・管理者用ツールをインターネット上で提供
- ・購入した eBook の目録データが標準提供され、自館 OPAC へロードすることにより、eBook を蔵書として利用者提供可能 MARC21 または NACSIS 準拠フォーマットにて提供可能

NetLibrary への日本語コンテンツ搭載計画(概要)

- ・サービス開始時期:2007年1月
- ・収録予定タイトル(第一段階)
学生用基本図書、参考図書コレクションなどを出版社に交渉中。
今年中には200冊位入るのではないかと。1年で1300冊、3年で5000~7000冊の計画。

NetLibrary eBook 導入のメリット

- ・コンテンツ、個人アカウントは NetLibrary のサーバー上で管理され、各サービスをインターネット環境のみで提供
 - 閲覧など書籍同様のサービス
 - 全文検索などデジタル媒体としてのサービス
 - カット&ペーストなどもできる、DBとして使う傾向がある
- ・保管、破損、損失、書架の収納スペースなどの問題なし
- ・学外(登録IP外)からも24時間アクセス可能

- ・ 買い切りサービス。電子ジャーナルのように年間維持費を確保する必要がない
コンテンツ価格は参加各出版社が設定するが欧米と同様最新版のハードカバーの価格と同じ程度に設定する見込みである。今後、オーディオブック（芥川龍之介の作品や落語など）、和雑誌さらには（将来的に）映像なども考えられる。